

【高島市】 校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）による本市の状況を踏まえ、特に課題と考える次の事項について、各学校と連携を図りながら校務DXの推進を図ります。

1. クラウドサービスの活用

本市では、全児童生徒および教職員に対し、LTE対応タブレット端末とともにマイクロソフトアカウントを付与していることから、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にあります。

しかしながら、各学校における校務DX化チェックリストの結果では、「保護者や教職員への調査・アンケートの実施集計や、教職員間の情報共有や連絡」など、一部業務においてクラウドサービスの活用が進んでいるものの、「児童生徒の欠席等連絡や保護者からの問い合わせや日程調整」など、保護者や児童生徒を対象とした活用が進んでいない状況です。

一部の学校においては、保護者との連絡手段として、スクリレやClasstingなどの保護者用連絡ツールを独自に導入し、保護者からの欠席連絡および学校からのお知らせ等をデジタルデータで配信するなど活用を進めていますが、依然として十分な活用ができていない学校があることから、教職員の業務負担軽減および保護者の利便性向上を図るため、各種クラウドサービスの利活用について研究・実践し、校務の効率化をより一層推進します。

2. 校務支援システムのクラウド化

本市では、業務の効率化、事務負担の軽減および行政事務コストの削減を図るため、令和元年度にセンターサーバや統合型校務支援システム等を自庁設置方式（オンプレミス）により構築し運用していますが、サーバ機器等の経年劣化や保守期間終了によるハードとソフトの問題に対処するとともに、システム管理担当者の負担軽減および情報セキュリティ対策の機能強化を図るため、クラウドサービスを主体とするシステムへの更新を予定しています。

教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、学校現場の教員と情報共有しながら、令和8年3月1日稼働を目指し調達事務等を進めていきます。

また、校務系ネットワークと学習系ネットワークとの統合を想定していることを踏まえ、データ連携やセキュリティ対策などについての調査研究を進めるとともに、校務支援システム、校務端末等の更新時期やネットワーク統合後の組織体制を視野に入れつつ検討を重ねていきます。